

お祖師さまを巡る人々

第18回



高祖日蓮大士ご降誕 800年慶讃

お祖師さま（高祖日蓮大士）は、『龍ノ口の法難（平成二十二年一月号の「お祖師さまをお訪ねする物語」を読んでね』のあと、佐渡島（新潟県）に流罪（罪人を都から遠く離れた所や島に送る刑）されたんだ。島で大変な生活をされるお祖師さまの所に、鎌倉（神奈川県）からはるばると幼い女の子と一緒に、若い女性が訪ねてきたんだね。今回は、その女性「日妙聖人」のお話をするね。

日妙聖人

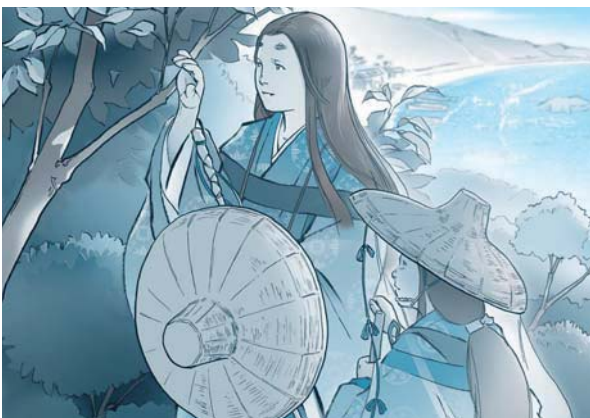
【日妙聖人】は、お祖師さまが鎌倉で御題目のご信心を弘めている頃、入信（ご信者となる）した女性なんだ。

結婚して【乙御前】という名の女の子がいるんだけど、まだその子が小さい頃、ご主人と別れてしまったんだね。死別（死に別れること）か離別（離婚）か分からないんだけど、【日妙聖人】は、女手ひとつで（女性ひとりで）幼い【乙御前】を育てながら、ご信心に励んでいたんだね。

文永八年（一二七一）九月、お祖師さまは「龍ノ口の法難」に遭い、佐渡島に流罪されることになったんだ。

【日妙聖人】は、いろんな苦勞をしてきたんだけど、御題目をお唱えし、お祖師さまのお話（御法門）をお聞きするのが、一番の幸せだったんだよ。

でも、お祖師さまが、遠い佐渡島に流罪され、不安、悲しみ、心配な気持ちでいっぱいになってしまったんだ。そこで「どうし



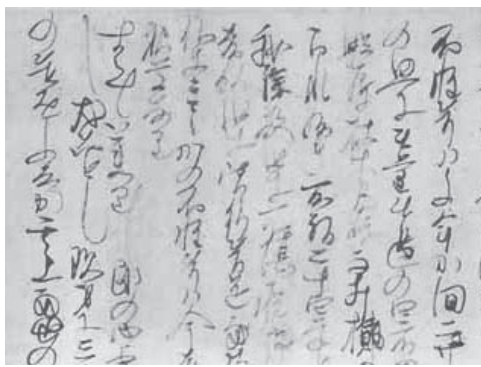
佐渡島へ訪れるため、山々や大きな川、日本海を渡り、治安の悪い中を日妙聖人は、身命をかえりみることなくお祖師さまに会いに行かれた

なつたんだ。（平成三十年六月号の佛立新聞「お祖師さまをお訪ねする物語」を読んでみてね）
すると、また【日妙聖人】は【乙御前】を連れて、身延山までお祖師さまにお会いに行かれたんだよ。お祖師さまも「沢山いるご信者の中でも、本当に立派なご信心ぶり」と喜び褒められたんだね。

この【日妙聖人】というお名前は、幼い子供を育てながら、まじめにご信心に励み、大変なところを頑張ってお参りされる姿に、心から感動され、「日妙聖人」という名前を与えられたんだ。

【日妙聖人】の「聖人」とは、優しくても心の強いご信心のある人のこと。その生き方が「お手本」となるような人のことなんだ。だから、お祖師さまは「多くのご信者の中でもとても立派なご信者です。皆さんもお手本としなさい」といわれたんだね。

幼い子を連れて佐渡島と身延山に行かれた【日妙聖人】。私たちも【日妙聖人】をお手本として、頑張ってお寺や御講にお参りさせてもらおうね。



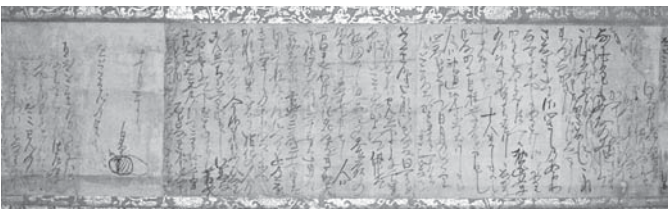
日妙聖人御書
この御書は、文永9年5月25日お祖師さまが51歳の時、日妙聖人に与えられたお手紙。御真筆は、静岡・本成寺の他、五カ所に断片が所蔵されている



妙照寺 祖師堂（新潟県・佐渡市）
お祖師さまは、文永9年4月から文永11年2月まで、佐渡島・一谷で暮らされたが、その草庵（住居）跡に建てられたのが妙照寺。文永9年5月、ここに約1ヵ月かけて鎌倉から、日妙聖人親子がお祖師さまを訪ねて来た

身延山にも

文永十一年（一二七四）、お祖師さまは佐渡島からご赦免（罪が許されること）となり、身延山（山梨県）に入られることに



乙御前母御書
女性の身で、親子で佐渡まで来られた。その志を褒められ、また娘の乙御前の近況をお尋ねになられたお手紙。文永10年ごろに認められたもの。（兵庫県尼崎市・長遠寺蔵 尼崎市指定文化財）